

西山中学校区 学区再編説明会質疑応答

日 時:令和6年3月20日(水)午後2時~午後3時45分

会 場:西山町いきいき館 いきいきホール

参加者:一般 60 人、市側:柏崎市教育委員会 田辺教育総務課長、伊比教育総務課長代理

内 容

- (1) 開会挨拶 西山コミセン田村謙治会長
- (2) 内容説明 田辺教育総務課長(再編方針に関する資料を参加者全員に配付)
- (3) 質疑応答 下記のとおり
- (4) 閉会挨拶 二田コミセン西沢彰会長

質疑応答の内容

地 域

柏崎刈羽原子力発電所をまたがない西山地域での小中一貫校、9年生の義務教育学校、広域連携による刈羽中学校との統合などの考えはあるか。

教育委員会

今の計画では、原子力災害が発生した場合に生徒は先生と一緒に指定された避難所に一旦避難し、その後、保護者と合流し引き渡すことになる。

小中一貫校については利点があれば可能性はあるが、小規模校を守るだけの設置であれば今のところ考えていない。

刈羽中学校との統合は前例がなくはない。教育理念や経費の問題など難しいと思うが絶対ではない。その前に、少し離れるがそれほど遠くない市立の学校である瑞穂中との統合をまずは考えたところである。

地 域

今更このようなデータを出すのは遅い。何十年も前から少子化は決まっていた。魅力がないから西山に住まないし柏崎に住まないのだと思う。そこを考えなければ我々は納得できない。地元が活性化しなければ意味がない。寺子屋方式でもよい。コミセンにお願いだが西山でもっと考えてほしい。

教育委員会

市と教育委員会は、できれば学校は地元に残したいとの思いが根底にあり数字が出せなかった。しかし、そのような考えでは子ども達の教育環境を維持することが難しくなったことは事実である。今までは個々の教育が重視されていたが、今はコミュニケーション能力の形成であると言われている。地域も大切だが、子ども達の将来のためにどのような形が良いのか皆さんと一緒に考えたい。

地 域

私個人の今までの学校生活は、西山中学校がなくなると小中高すべての母校がなくなるので寂しい気持ちがある。

今後、中学校が他の学校と統合された場合には制服や体操着の買替費用など、保護者への金銭的サポートを100パーセントとは言わないが検討願いたい。

また、再編方針9ページの2(2)イの統合年度等に「瑞穂中学校と単式学級が見込まれる西山中学校が統合します。」とあるが「西山中学校と統合します。」の表現が平等に感じる。

教育委員会

表現は失敗であった。今後、方針を新しいものに変える場合は訂正する。

体操着等については、今のやり方を続けた場合、統合が決まったらまず統合準備委員会を設置し、校名や校歌のほか、スクールバスの運行ルートや後援会やPTA会則を決めていく。その検討する項目の一つに体操着や制服の対応がある。現時点で費用を補助するともしないとも言えない。

地域

子ども達の通学距離、通学時間について、現在と統合後の状況を調べて教えてほしい。また、原発事故が起こった場合の避難の方法をどうするのか。

加えて、昔、西山町の子ども達が高浜小学校で教育を受けたと聞いたことがある。事実かどうか調べていただきたい。

また、刈羽中学校との統合が絶対に出来ないのか調べていただきたい。

教育委員会

通学時間は、スクールバスの運行台数が決まっていないため、自宅から瑞穂中学校までの時間に10分～15分を加えてもらえば良い。統合が決まったら子ども達の住所等を調べて提案する。

災害時の避難は、防災・原子力課が計画を作っており、他の地域と同様の避難方法である。学校の場合はバスに乗り妙高方面へ避難する。

高浜小学校の件については個別に回答する。

刈羽中学校との統合は絶対できないとは言わない。それぞれの自治体の事情が合致すれば可能性はゼロではないが、現実には難しいと考えている。

地域

瑞穂中学校の災害時の避難所、避難場所を聞きたい。

また、この計画では娘が中学3年生の時に統合となる。受験への影響が心配だが、どのように考えているか。

教育委員会

原子力災害時の避難場所は妙高杉野原スキー場、自然災害時の避難場所は瑞穂中学校である。

受験への影響は、それぞれの学年を考慮すると統合が出来ないためご容赦いただきたい。

地域

統合は決まっておらず今後協議して決めていくとのことだが、誰がどのように関与し決めていくのか。先ほど、高浜小学校へ通ったとの話があったが、鎌田集落の上に住む子ども達が通っていた事実がある。小中一貫校、行政越校は難しいとのことだが、難しいだけでは分からないので具体的な説明を聞きたい。

教育委員会

状況が変わってきているため、新たに方針を作る必要があると感じている。ここに書いてある瑞穂中学校との統合は令和3年に作成したものである。はじめに教育委員会内にプロジェクトチームを作り、その後、皆様に広報等で今後協議をさせていただくとお知らせした。これは提案であるため意見を聞きながら直すものは直しながら進めていく。

小中一貫校等については駄目だとは言っていない。検討はする。

地域

本日の参加者は、それぞれ意見を持っていると思う。その意見をまとめるのは教育委員会ではなくコミュニティ組織だと考えている。

田村会長

本来であれば西山地区振興協議会が担当するべきものと思うが、現在、組織がない。3つのコミセンが協議し、もしプロジェクトに参加してほしいということであれば皆さんの意見を吸い上げる取りまとめ役をやらなければいけないと思っている。

地 域

本日参加していない人へのアンケートの対応をお願いしたい。

教育委員会

そのアンケートの内容は、統合に賛成か反対かというもののか。

地 域

それもあるが、聞きたいことがあると思う。先ほど、コミセンが取りまとめをしようかという話もあるので、してもらえればと思う。

教育委員会

もし可能であれば、本日のような機会を開いていただく方が良いと思う。具体的な話になっていないため、同じ話になるかも知れないが統合に関する考え方を説明する機会が何度もあっても良いと思っている。地域の皆様が集まる機会があれば呼んでいただきたい。

地 域

今日の話は提案ですよね。西山町に決定機関がない。大事なことなので田村会長が中心となり進めてほしい。

教育委員会

提案であるが、本提案としてお願いすることもあるし、違う提案をすることもあることを承知願いたい。

地 域

意見交換をして、どのくらい意見が反映されるか。

教育委員会

今までの進め方を説明する。学区等審議会に諮問し、その後地域の皆様に本提案として市教育委員会の意見を説明する。その時に様々な意見を聞く。学区等審議会からは、市教育委員会の意見や地域の意見を聞いてもらい、子ども達にとって適切な環境を判断してもらう。それを受け、市と教育委員会で最終的な判断をする。よって、市教育委員会の実務として変えることはできるが、方針を変えることはしていない。現時点では、方針を変えるかどうかの考えを持っていない。であるがゆえに、要望を受け取ることはできる。反映できるかどうかは別である。

地 域

別の市町村をまたいで通うことは、心理的な壁があるので、住民の関心度も高いと思う。統廃合のモデルケースとして湯沢学園に見学に行った。小中一貫校は、西山地域での学校の在り方としては、かなり良いものであると思っている。人数の問題も、西山地域の小中3校が統合することで解消できる。また、学校が地域からなくなることも解消できる。いわゆる中一ギャップを改善する比較的新しい取り組みとして小中一貫校が浸透してきていると思う。個人的には良いと思っているので提案をしたいが、受け止めの中に納まるだけなのか、受け止めを形にして方針に反映する余地があるのか。

教育委員会

要望としてあげてもらえば十分に検討する。皆様で意見を取りまとめてもらいたい。

地 域

瑞穂中学校と統合した場合、スクールバスの経費は市が全額負担するのか。

教育委員会

保護者の負担はない。

地 域

コミセンの統合もそうだが、第五次総合計画前期基本計画でも具体的には書いてなく、全く決まっていなかったとの回答があった。その後、バタバタと統合が決まった。小中学校の統合についても、このままバタバタと統合すると感じている。個人で言ったものは、なかなか取り上げてもらえないため、コミュニティ組織がとりまとめ、教育委員会に提案してもらいたい。

教育委員会

一人ひとりの意見を聞き検討したいが、教育に限らずそれぞれの考えや価値観があると思う。地域で意見をまとめ、教育委員会に上げていただけるということであれば幸いである。

地 域

学校再編が地域の在り方と混同して議論している。子どもを育てる親として、「中学校がこうなることで、あなたの子どもはこうなる」と魅力的なメッセージを発信してもらおうと自分たちの考えを整理することができる。それとは別に、教育委員会が所管ではないと思うが、中学校がなくなることで、この地域にどれだけインパクトがあり、先に中学校がなくなった地域の状況を教えてほしい。

教育の問題を端に、いろんな議論をすると感情論になってしまう。教育の問題で投げ掛けをお願いしたい。地域の問題は、別に市としての対応やビジョンを示していただきたい。

また、五中の統合が見送られたとのことだが、西山中学校の統合はどのようなタイミングで、誰が判断するのか。また、なぜ五中は見送られたのか。五中より大きい西山中の統合が先になることがあるのか。今日は説明会であり、議論はいつから始まり、いつ判断するのか。

教育委員会

生徒への影響は、本日配付したメリット・デメリットの資料を確認してほしい。地域の在り方と統合が混同することは、どの地域でも同じであり仕方のないことだと思う。しかし、教育委員会としては子ども達の教育環境の側面だけで話をしていく。子ども達の減少は地域の活性化などより遥かに早いスピードで進んでいる。地域の在り方、発展を一緒に検討すると子ども達が置いていかれる。そこは割り切って話をしていく。五中の統合見送りは、市長と教育委員会の判断である。理由は、学区等審議会の答申の内容が、高柳中と五中の統合から時間が経っていないこと、登校時間が長すぎることで、生徒数が急激に減少しないことが主な理由である。

以上